まちづくり掲示板
021 豊中駅前まちづくり推進協議会

ゆっくり楽しく歩き回れるまちを目指して

現在豊中駅前は大きく変わろうとしています。旧新開地ビルはマストメゾンとして建て替わり、ジオ１３００はマンション建設に向け工事中です。懸案であった都そば前はバリアフリーの交差点にと、来春完了に向け夜間工事が行われています。一番街は舗装工事により大変歩きやすくなり、千里川までの第二期工事が進行中です。このような大きな変化をまちづくりに繋げ、魅力に満ちた活気ある駅前にしていくひとつとして「七夕まつり」を考えてみたいと思います。

★「豊中駅前七夕まつり」について考える その３

七夕まつりを継続、発展させることについて前回の呼びかけに応じ、建設的な意見が寄せられています。今回は本誌で過去５回に亘り掲載しました「七夕まつりを考える」の取材から少し整理し、意見の一部を紹介します。

33年前に一番街の片側を通行止めにして始ったおまつりが、翌年からは一番街と銀座通りを一定時間バスや車を入れず歩行者天国にして開催されて今日に至っていること。

「関係機関は大変多いと同時に趣旨・意義に理解を得て、事業への協力を得るのに随分時間が掛かりました。豊中市の土木部の道路使用（占用）許可は勿論のこと、警察には交通管理者としての立場から、道路の使用許可と交通整理の問題があります」「高槻の国道事務所にも日参しました」「阪急バスにも大変な協力をしてもらっています。バス停の移設のお知らせのため、大きな看板を作って貰ったり、チラシの配布、車中の中吊りにもお知らせを載せてくれていました。消防署には、消火栓を塞ぐことになるのでその理解を求めました」（芦田氏：談）
（まちづくり掲示板2．2009年9月中旬号）

豊中駅前はお隣の岡町と違って、駅の直ぐ前に国道が走っています。また、まちの中心街である商店街に２本の道路が通り国道と繋がっています。そのためまちを歩く人たちは常に車に気を配らなければなりません。こんな構造を持った駅前で歩行者天国が実現されたことは、当時としては大変な快挙として、周辺の人々に歓迎されたのだろうと推測されます。開催にこぎつけるための苦労が芦田さんのお話で良く分かります。歩行者天国を実現したいとの熱意は、１年１度、数時間だけでも車に邪魔されずゆっくりと楽しく歩きまわれるまちをつくりたいとの想いだったのではないかと思います。

それから十数年後に「豊中駅前まちづくり構想」が住民により作成され、豊中市長へ提案されます。その構想で謳われているスローガンは「ゆっくり楽しく歩き回れるまちを目指して！」です。これからの七夕まつりの再生に取り組むためには、先ずこの目標を主催者である駅前の商業者はもとより今後参入する団体やグループ、個人の方々が確認し合うこと。そして、内外に明確にアピールすることが大切だと思います。また、七夕まつりがまちを変えていく、駅前が元気になる、まち魅力が増し、快適な通りになっていく、具体的な目標を掲げ、実現することではないでしょうか。

「寄せられた意見」の一部

○まちづくり掲示板19にあったアンケート結果の「ベンチ」や「トイレ」など、まちを訪れ、利用する人たちが望むものが、七夕まつりを契機に設置されていけば良いと思います。「公衆トイレ」はなかなか直ぐに出来ないので、お店がお客さんに貸してあげる商店街は全国でもいくつかあると聞いています。

○歩道だけでなく車道まで商品を陳列して営業している店がありますが、七夕まつりを準備する中で、そのようなお店に自粛を求め、商店街として許される範囲でのルールをつくればどうでしょうか。お店同士でなかなか言い辛いとうことであれば、実行委員会から申し入れをすれば良いのでは。そのためにも住民の人たちも主催者の一員にならなければと思います。

○昔、宝くじがあり当日会場で抽選会がありました。イベントの最後だったと記憶しています。くじは買い物をすれば貰えました。売り出しもしていました。来年の七夕まつりで復活してくれたら楽しいだろうなと思います。

会員募集中
共に、生き生きとした、誇りが持てる、安心して住み続けられるまちづくりを進めませんか
年会費（一口以上何口でも）
個人会員一口 300円
商店会員一口1,000円
問い合わせ先：
まちづくりセンター（協議会事務局）
TEL / FAX:06 - 6858 - 6190